

1984-2001

法則化運動40周年

教育

新宝島



7月特典

向山洋一教育資料

No. 08

2024  
JUL.

# 本資料について

## 1. 法則化運動 40 周年

向山洋一氏が教育技術の法則化運動（以下、法則化運動）を立ち上げてから、今年でちょうど 40 周年となる。

「すぐれた教育技術・方法を集め、広めること」

を目的とした法則化運動は、全国の若い教師に支持され、爆発的な広がりを見せた。

向山氏の公式ウェブサイトには、当時の様子が次のように記されている。

(<https://mukoyamayoichi.com/>)

「跳び箱が跳べるようになった」  
「漢字が苦手だった子が 100 点を取るようになった」など、目の前の子もたちが変化した事実と、誰でも全国どこからでも参加できる運動だったことから、法則化運動は 20 代・30 代の教師から支持され、次々と法則化サークルが誕生し、全都道府県に広がった。

実際、法則化運動に賛同するサークル（法則化サークル）の数は全国で 1,000 を超え、関連する教育雑誌も『教室ツーウェイ』（明治図書）をはじめ 10 種類以上、関連書籍

は 1,000 冊にのぼった。

## 2. 立ち上げの熱気を伝える資料

本冊子には、以下の資料を掲載している。法則化運動立ち上げの熱い鼓動を感じていただければ幸いである。

- (1) 『教室ツーウェイ創刊号グラビア』  
1986.4（明治図書）
- (2) 「教育技術法則化のよびかけ  
（第 1～3 次案）」1984  
向山実物資料 A10-09-01～03
- (3) 「法則化応募論文リスト①」  
1984  
向山実物資料 A10-09-01-04
- (4) 「法則化運動ニュース」1985  
向山実物資料 A98-03-01
- (5) 「教室ツーウェイ構想メモ①～  
④」1985 向山実物資料  
A98-10-01-01～04
- (6) 「法則化合宿通信」1984

なお、本冊子の解説は、法則化運動中央事務局メンバーであった板倉弘幸氏である。

---

向山洋一氏は、次世代を担う若い先生方のために、20 万点をを超えるさまざまな実物資料を残した。これらの一部を、メルマガ「谷和樹の教育新宝島」の特典資料として、会員限定で公開する。

- 向山洋一の教育資料を解説付き PDF 冊子にして毎月一回配信（30 ページ前後）
- 向山洋一の未公開映像・音声を年 6 回以上配信（不定）

# 法則化運動は津々浦々に!!

## 向山洋一全国縦断講演会(Ⅰ)

名古屋市三省堂書店  
教育講演会

### 教育技術の法則化

教師の腕を上げる法則

主催  
三省堂書店

後援  
明治図書

● 講師 向山洋一先生 講師大塚小教諭



● 『教室ツーウェイ創刊号グラビア』1986.4 (明治図書)



# あなたも書けます！

## ●教育技術法則化のよびかけ

「跳び箱は誰でも跳ばせられる」という向山式指導法は全国に広がり、何千名という子供が跳べるようになりました。水泳で伏し浮きを教える時、「身体の力をぬいて」というより、「お化けになって」という方が効果があります。

このような教育技術は全国にたくさんあると思います。年輩の教師・退職した教師の中に埋もれてしまっているのもあります。

本企画は、埋もれた教育技術を発掘すること、教育技術を追試・修正して法則化すること、教育技術を広め共有財産化することのために考えられました。

「こんなささやかなことでいいのかな」と思うような教育技術、先輩の教師に聞いたという技術、本で読んだことを追試してみたという報告などをぜひご投稿下さい。教育内容、教育方法、その他教育に関係することなら各分野・各領域すべて結構です。一つの論文で一つの技術・方法を論じて下さい。

お一人で何本投稿されてもかまいません。一つの教材をいくつにも区切ってたくさん応募されても結構です。この企画は年に3回募集の割で続けます。

ぜひ、多くの投稿をお願いします。

### 要 項

1. 目 的
- ①全国の埋もれた教育技術を発掘する。
  - ②追試・修正を通して教育技術を法則化する。
  - ③法則化した教育技術を広め、共有財産化する。

2. 投稿論文 [第1回メ切] 昭和59年10月20日

〔形式〕400字詰原稿用紙3～8枚

〔宛先〕〒104 東京都中央区入船3-3-11

明治図書第1編集部（江部・樋口あて）

\*応募原稿欄外に、住所、氏名、年齢、勤務先をご記入下さい。

〔内容〕①教育技術・教育方法にかかわるものならずすべて結構です。

②各教科、道徳、各領域、領域外のことまですべて結構です。

## あなたも書けます／第1回投稿論文の募集

- ③他の教師の追試、本の追試、修正でもかまいません。  
(この場合、必ず先行研究者名を明記して下さい。)
- ④発表・未発表、団体・個人を問いません。
- ⑤できるだけ狭いテーマにしてお書き下さい。
- ⑥今までの方法より、ほんのわずか効果があるということで結構です。
- ⑦「こんなさやかなことでいいのか」ということで結構です。
- ⑧「先輩教師に聞いた」ことでも結構です。退職された先輩からどしどし聞いて下さい。

テーマ例

- |                 |             |
|-----------------|-------------|
| ①「立」という漢字の指導    | ②水にうかせる方法   |
| ③絵の具は何色から教えるか   | ④個人新聞の方法    |
| ⑤ハーモニカ第1時の指導    | ⑥かけ算九九の展開方法 |
| ⑦集合した時の並ばせ方     | ⑧「ア!」を教えて   |
| ⑨「かさこじぞう」の5つの発問 | ⑩学級文庫係りの指導  |
| ⑪学級経営案の形式、記入例   | ⑫3分間のお話     |

### 3. 審査

- 〔基準〕①他の教師に役立つもの（主基準）  
②文章が読みやすいもの（副基準）
- 〔発表〕①佳作 雑誌の誌上でテーマ・氏名を発表します。  
②入選 誌上に論文を掲載します。  
③入賞 誌上に論文を掲載し、「教育技術法則化シリーズ」の原稿を再依頼します。

〔特典〕掲載論文には、原稿料または印税をお支払いします。

### 4. 発表

なお発表はすべて、教育技術法則化シリーズ(第1期10冊)及び連合雑誌の誌上で行います。

第1期10冊の発行は昭和60年2月を予定しています。

### 5. 主催者

教育技術の法則化運動（代表・向山洋一）  
教育情報センター（代表・安達拓二）  
明治図書教育雑誌連合（現代教育科学, 授業研究, 特別活動研究, 国語教育, 社会科教育, 理科教育）  
（代表・江部 満）

### 6. その他

応募論文への添削を誌上で行います。ご希望の方はその旨を応募論文にお書き下さい。

第1次案 1984.5.9. 向山.

## 教育技術法則化のよびかけ 投稿論文のよびかけ

「跳び箱は誰でも跳ばせられる」という向山式跳び箱指導法は、全国に広がり、今まで跳べなかった者が、何千名も跳べるようになりました。

このような技術は、全国各地にたくさんあると思えます。そういう技術を発掘し広め、教師の共有財産にしていくために、本企画を考えました。

ぜひ、ご協力いただきますようよびかけるものです。

1. 目的 投稿論文を広く募ることで、教育技術の共有財産化を図る。

### 2 投稿論文

- |    |   |
|----|---|
| 時期 | 第1回×1 9月30日(遅着は第2回へまわす)   |
| 形式 | 原稿用紙400字詰 6枚(図表を計算に入れる)(中編は資格者)   |
| 宛先 | 明治図書編集部   |
| 内容 | ①教育内容・教育技術に関するものは何でもよい<br>②他実践の紹介、追試、修正でもよい。(その旨を明記する)<br>③発表・未発表、個人・団体を問わずよい。(1ページ以内)<br>④必ず、他の教師が真似できるもの。<br>⑤いくら狭いテーマでもよい。効果が1%でもよい。 |

例 ①漢字「立」の指導

②「かまこじぞう」導入の発問

③水に浮かせる指導

④群読の指導

3 審査 基準 ①他の教師に役立つもの

②効果が見えやすいもの

③文が読みやすいもの

審査員 ① 宇佐美寛、向山洋一、江部満、樋口雅子

- 賞 ①佳作 1名の審査員が推しするもの
- ②入選 2名の "
- ③入賞 3名以上 "

- 4. 発表 ① 作者は誌上に氏名・テーマを発表する
- ② 入選者は誌上に「論文」を発表する
- ③ 入賞者は誌上に「論文」を発表し、後日加筆して「教育技術の法則」シリーズに含める。
- ④ 発表はすべて「教育技術の法則シリーズ」の巻末で行う。
- 5. 特典 ① 佳作3回で明治図書特稿依頼名簿に登載
- ② 佳作・入選(2回以上)5回で雑誌論文執筆
- ③ 佳作・入選5回で、本シリーズ(中編)入稿用紙16枚応募資格を得る
- ④ 入選・入賞(4回以上)8回で、共著、雑誌別冊の特稿依頼
- ⑤ 入選・入賞(6回以上)10回で、連載、or 著書、or シンポジウム提案依頼。
- 6. 添削 応募論文へのコメントを求められる。  
葉書き(宛先記入のこ)と500円分の切手を同封のこと。

**投稿論文のページ**

- |                          |          |             |
|--------------------------|----------|-------------|
| 1. 特稿論文 (1本~3本)          | }        | 計 20P       |
| 2. 入選論文 (5本~10本)         |          |             |
| 3. 作者氏名                  |          | 1P          |
| 4. 今回の応募状況、総数、男女、地域、テーマ別 |          | 1P          |
| 5. 審査を終えて、               | 研究論文の書き方 | 佐佐美俊 2P     |
| 6.                       | 実践記録の書き方 | 向山洋一 2P     |
| 7. 次回の連絡 お知らせ            | } 編集長の意見 | 江神満・樋口雅子 2P |
|                          |          |             |

**キーワード** 教育技術の法則化, 共有財産化, 実践家の発掘。

第2次案 1984.5.13. サークル等の意見をもとに修正しました。

## あなたも書きませんか -投稿論文のよびかけ-

「跳び箱は誰でも跳ばせられる」という向山式指導法は全国に広がり、ほんの数分の指導で何千名という子どもが跳べるようになりました。

「バスの運転手さんはどのように仕事をしていますか」という発問では子どもは動きませんが、「バスの運転手さんはどこを見てますか」という発問では子どもをゆさぶります。

このような技術は、全国各地にたくさんあると思えます。そうした技術を発掘し、法則化していくことは、より価値ある教育を築いていく上で大切なことです。また、法則化した技術を広め、修正し、教師の共有財産としていくことも大切です。

本企画は、埋もれた教育技術を発掘し、法則化し、共有財産化していくために考えられたものです。ぜひ、一人でも多くの方々の投稿をよびかけるものです。また、「良い仕事をしているのに、書くのは苦手だ」という方もおられます。

そのため、「自分の実践を書く」ことのほかに、「私の知っている教師に、こんなよい実践をしている」という、紹介の論文でも良いことにしました。

「書くのは苦手だが、うまく書けるようになりたい」という方のために、添作を企画しました。また、「研究論文・実践記録の書き方」の講座も参考にすると思います。この企画は、年4回募集の割ですべて続けます。

ぜひ、多くの投稿をお願いします。

1. 目的
  - ① 全国の埋もれた教育技術を発掘する。
  - ② 教育技術を法則化する
  - ③ 法則化した教育技術を共有財産化する。
2. 投稿論文 湘回締め切り、昭和59年9月30日（遅着は才2回にまわし封）
  - 形式 400字詰原稿用紙6枚以内（図表は計算機に入れ封）
  - あて先 104 中央区入船3-11 明治図書出版 才1編集部住所氏名、年齢、勤務先をご記入下さい。

内容 ①教育技術 教育内容にかかわることなら何でもかまいません。

②他の教師の紹介、他の技術の修正、他の児童の自説でも結構です。  
(その旨を明記して下さい)

③お一人でいく応募されて結構です。発表・未発表を問いません。

④どれだけ狭いテーマでも結構です。今までよりほんのちよと効果があるでも結構です。

テーマ例 ①漢字一字「立」の指導 ⑤絵の具は何色から教えるか

②入学式に何を教えるか ⑦さかあがりの指導方法

③木にうかせる方法 ⑧新年度俤りの指導

④ハモカニ者の指導 ⑨かさこじょう 導入の発問

⑤かけ算などの展開方法 ⑩「雑草園」で何を教えたか。

### 3. 審査

基準 ①技術が他の教師に役立つもの (主基準)

②文が読みやすいもの (添作後の再応募もできます)

審査員 宇佐美寛、向山洋一、江部茜、樋口雅子

表彰 ①佳作 1名の審査員の推せん ②入選 2名の審査員の推せん

③入賞 3名以上の審査員の推せん

発表はすべて『教育技術の法則化シリーズ』(仮)第1期4冊)の巻末で行います。

### 4. 賞

入賞 (1名~3名)……誌上に応募論文を公表し、『教育技術の法則化シリーズ』に合  
めず、警状を発行します。  
研究賞 明治図書雑誌(1種)1年分。

入選 (5名~10名)……誌上に応募論文を公表します。警状を発行します。

研究賞 明治図書教育書2冊。

佳作 (制限なし)……誌上にテーマ、氏名を公表します。

### 5. 特典

① 佳作・入選 4回で雑誌論文発表の場を提供します。

② 佳作・入選 8回(但し入選5回以上)で雑誌別冊毎どの場を  
提供いたします。

③ 入選・入賞 10回で、著書、共著、特集の提案などの場を提供します。

### 6 添作

④ 明治図書企画の公開研究会に優先的に参加できます。(1回でも佳作・入選)  
応募論文に対するコメント程度の添作を希望できます。添作は、向山洋一

向山があたります。返信用封筒と1000円分の切手を同封して下さい。  
(1年) 添作後に再応募して結構です。

→◇ 6枚では短いといわれるため16枚の中編の応募も受けつけます。中編の応募には資格が必要で、  
資格は、佳作・入選3回以上ということになります。

(才三第案...は...の...確定...の...だ...向山江郎様)

〈才1回投稿論文の募集〉

あなたも書けます 教育技術法則化のよびかけ

「跳び箱は誰でも跳ばせられる」という向山式指導法は全国に広がり、何千名という子供が跳べるようになりました。水泳で伏し泳ぎを教える時、「身体のカをぬいて」というより、「お化けになって」という方が効果があります。

このような教育技術は全国にたくさんあると思います。毎年の教師・退職した教師の中に埋もれてしまっているのがあります。

本企画は、埋もれた教育技術を発掘すること、教育技術を追試修正して法則化すること、教育技術を広め共有財産化することのために考えられました。

「こんなささやかでいいのかな」と思うような教育技術、先輩の教師に聞いたという技術、本で読んだことを追試してみたという報告などをぜひ投稿下さい。教育内容、教育方法、その他教育に関係することなら各分野・各領域すべてけっこうです。一つの論文で一つの技術・方法を論じて下さい。

お一人で何本投稿されてもかまいません。一つの教材をいくつにも区切ってたくさん応募されてもけっこうです。この企画は年に3回募集の制が続けます。

ぜひ、多くの投稿をお願いします。

1. 目的
  - ① 全国の埋もれた教育技術を発掘する
  - ② 追試修正を通して教育技術を法則化する
  - ③ 法則化した教育技術を広め共有財産化する
2. 投稿論文
 

才1回×17	昭和59年10月20日
形式	400字語彙稿用紙8枚以内
宛先	104 東京都中央区入船3-3-11 明治図書才1編集部 (応募原稿欄外に住所、氏名、年齢、勤務先をご記入下さい)
内容	① 教育技術、教育方法にかかわるものに限らずけっこうです。 ② 各教科、道徳、各領域、領域外のことまでけっこうです。 ③ 他の教師の追試、本の追試、修正でもかまいません。 (この場合、必ず先向研究者名を明記して下さい。) ④ 発表、未発表、団体、個人を問いません。 ⑤ できるだけ狭いテーマにしてお書き下さい。

- ⑥ 今までの方法より、ほんのわずかが効果があるということだけこうです。
- ⑦ 「こんどさやわなとほしいのか」ということだけこうです。
- ⑧ 「先輩教師に聞いた」ことだけこうです。退職された先輩からとほし聞いて下さい。

- テーマの例
- ① 「II」という漢字の指導
  - ② 絵の具は何色から教えるか
  - ③ 水にうかせる方法
  - ④ 個人新聞の方法
  - ⑤ ハーモカオ一跨の指導
  - ⑥ かけ算九九の展開方法
  - ⑦ 集めた紙の並べせ方
  - ⑧ 「アリ」を教える
  - ⑨ 「かさこじょう」の5つの発向
  - ⑩ 学報文庫帯りの指導
  - ⑪ 学報経営案の形式、記入例
  - ⑫ 3分間のお話。

- 3 審査 基準 ① 他の教師に役立つもの (主基準)

② 文章が読みやすいもの (副基準)

- 発表 ① 佳作 誌上でテーマの頁を公表<sup>します</sup>
- ② 入選 誌上に論文を掲載<sup>します</sup>
- ③ 入賞 誌上に論文を掲載し、「教育技術法則化シリーズ」の序誌に再依頼<sup>します</sup>。

特典 掲載論文には、原稿料または印税をお支払いします。

4. 発表 なお発表はすべて、教育技術法則化シリーズ(オ1期10冊)で行います。

オ1期10冊の発行は昭和60年2月を予定しています。

- 5 主催者 教育技術の法則化運動(代表 向山洋一)
- 教育情報センター (代表 安達拓二)

明治図書教育雑誌連合(現代教育科学、授業研究、特別活動研究、  
国語教育、社会科教育、理科教育)  
(代表 江部 満)

- 6 その他 応募論文への添作を誌上で行います。ご希望の方はその旨を応募論文にお書き下さい。

1

法則化応募論文 1. 1984.7.20 ~ 8.15

1	短い詩を授業する。(坂くぼる...) 1.	東京	石岡房子	29	バスに酔う子の指考
2	詩の暗誦	千葉	根本正雄	30	「カラスのかお」実践
3	ゴミのひろめせ方	東京	石川裕美	31	斜り下かりのあそび筆
4	こうもりがえしは誰でもできる	千葉	根本正雄	32	水に浮かせる指考
5	集団わらばせれり子花の指考	東京	石岡房子	33	後方ブリッジの指考
6	立俣神者を込め可初歩的方法	東京	石岡 修	34	国語科. 731マウスの
7	視写を5分で完了させる		〃	35	水粉画の写し. 色い
8	一年生の並ばせ方	東京	石川裕美	36	70-117. 25m泳が
9	加代の四季の実践	北海道	原藤芳文	37	15mのセウのりニ
10	向山実践を鑑別する「春」		〃	38	↑ 「とんぬ」でのクイ
11	くつつきの「は」の指考 1.	東京	石川裕美	39	3位の足は本当に速く
12	人形知を渡す①脚本を読む	東京	石岡房子	40	祭向定石は静寂の吟
13	②人形道具の作り		〃	41	短い詩を授業する 2
14	③楽座をつくる		〃	42	〃 (3)
15	④公演をする		〃	43	〃 (4)
16	二重とびと三重とびの相度	千葉	根本正雄	44	〃 (5)
17	国語の1-10の使い方(1年11月期)	東京	石川裕美	45	〃 (6)
18	くつつきの「は」の指考 2. 主語の		〃	46	〃 (7)
19	3 視写と取写		〃	47	〃 (8)
20	5 応用		〃	48	〃 (9)
21	化学科体育ランニングセウのゼッケン	東京	笠野健三	49	〃 (10)
22	泳がたい子は必ず泳がずおしお子		〃	50	〃 (11)
23	さか上がりは誰でもできる	千葉	根本正雄	51	子どもが動く「発由
24	短い詩(2) をりてて...	東京	石岡房子	52	子どもが動く. 三
25	短い詩(3) 岸の野にわがりの		〃	53	視写を「5分」で完
26	ドッジボールの指考	山口	山田福成	54	短歌の授業「金魚の
27	わん工(2時)	北海道	原 裕三	55	向山式では眼配り
28	祭向定石は静寂の吟味から	愛知	佐味俊幸	56	段階式(南物とびの指

千葉	高徳 駿也	57	初めへの授業参観のために	東京	板倉 弘幸
	"	58	漢字の書きとりを向上させるには	"	"
算指導	"	59	「これって漢文」ことわざ〈国語〉	"	"
	"	60	新しい問題に生かして考えるときに	"	"
	"	61	さかあがりの指導のコツ	"	"
道甲	山口 永富 英雄	62	おわりかあしやりをほめる3つの技巧	"	"
の中心とした入札指導	愛知 西尾 一	63	車たーい詩の授業	"	"
せり方法	豊橋 福井 久満	64	一年入門期の音楽	東京	石川 裕美
させる水泳指導	山口 永富 英雄	65	漢字の指導。(一年入門期)	"	"
マフスに関する案内	山口 永富 英雄	66	わり算は下り九九で	相模原	岡 康子
くはる	北海道 須藤 芳文	67	楽しい短文指導	"	"
の味から	愛知 佐々木 俊幸	68	全量が楽しめるポर्टボール	"	"
うをりとりて	東京 石岡 房子	69	漢字テストは名前で20点	"	"
うをりとりて	"	70	詩の授業 山頂から	東京	石岡 房子
の野に	"	71	物語の授業 太郎こぼろぎり	"	"
術を行き	"	72	" " (2)	"	"
ひることの	"	73	長さの指導 3年巻尺	"	"
石はしる	"	74	さかあがりの指導	"	"
山かがり	"	75	ランニングシューズのゼッケン	東京	錦野 健三
村南の	"	76	ひと目でわかる体育得点板	"	"
太郎をばあせ	"	77	忘れ物をなくさせる	愛知	佐々木 俊幸
太郎をばあせ	"	78	「電」の指導 イメージくまっせ	"	"
り	東京 石黒 修	79	「春の歌」の一篇と対話の指導	北海道	須藤 芳文
の案内	"	80	事実と感想の割合に注目させる作文指導	"	"
了させるには	"	81	修学旅行の作文の書きかた	"	"
の〜	愛知 佐々木 俊幸	82	マット遊びの導入	大阪	石橋 卓
の13の補助指導	"	83	詩をあげてさせる方法	"	"
指導	東京 板倉 弘幸	84	向山洋一の直試「おもしろ	"	"

教育技術法則化運動からのメッセージ

**TWO-WAY**  
**教室 ツーウェイ**  
向山洋一編集長の雑誌です

創刊してやがて15年になりました。この間に、  
「授業の腕が上がる雑誌です。」  
「あなたがつくる雑誌です。」  
「授業の腕を鍛える雑誌です。」

授業の腕が上がる雑誌です。

あなたがつくる雑誌です。

授業の腕を鍛える雑誌です。



# テレビ朝日の大反響

## ニュース・ステーション



久米宏キャスターのニュースステーションで「教育技術法則化運動」が紹介されました。15分の特別番組です。向山洋一の跳び箱指導の場面、(跳べない子3名が本当に跳べました)20代講座の様子、向山学級の国語の授業、向山洋一のインタビューなどで構成されていました。

1. 放映されるとすぐ、テレビ朝日の方へ問い合わせの電話がかかったそうです。予想以上の大反響とのことでした。
2. 明治図書の方も電話が鳴りっぱなし。「向山洋一の本はどうしたら手に入れられるか」「向山語録の本はあるか」などの問い合わせです。
3. 書店の方からも問い合わせが多くあり、書店から「買い取りで法則化関係書籍を揃えたい」などの申し込みが続く。
4. 取材などの面会が続きました。
  - ・ある映画会社。重役が感動して「すぐお会いしてこい」と部長に指示。
  - ・あるビデオ会社。社長から直接の指示で「15分でもいいから」と面談。
  - ・ある有名デパート企画室から「母親向けのご講演をしていただけないでしょうか」。
  - ・講談社の週刊「ゲンダイ」の記者。「どこでもいいですから取材します」とのこと東北合宿に向う新幹線で車中取材。
  - ・学研「学参」の企画室長。「跳び箱のレイアウトを見ていただきたいのですが」。
  - ・ある児童文学の大手会社……。 (まだまだいっぱいありました。)
5. 7月のNHK教育テレビの「人間家族」も大反響でした。こちらは京浜教育サークルの板倉氏の跳び箱指導を子供の側から追いかけたドキュメンタリーです。
6. 進研ゼミの母親向け雑誌、学研の母親向け新聞にもカラーグラビアのトップ記事で紹介されましたから100万人を超える小学生の母親が知ったことになります。

# 子供遊び文化

## 子供チャレンジランキングの募集

◆全国各地の学校で、いわゆる「学校ギネス、学級ギネス」の運動がくり広げられています。

「かえる倒立が何秒できるか」「一分間に二重まわしが何回できたか」というような、子供文化の「ギネス」です。

特活の時間、ゆとりの時間などを活用して展開されているようです。しかも、子供社会の裏文化が取り上げられているようです。子供の文化を守りたい、学校を楽しくしたい、伝承文化を残したいというような願いがあるようです。

これらの「学校ギネス」「学級ギネス」を、全国的に交流させたらどうかと考えました。「ツーウェイ別冊」も考えています。

児童館の先生方を中心にして「トータス」という運動が広がっていますが、これとはちがう形になりそうです。

そこをお願いですが、ぜひ、各学校のギネス・各学級のギネスなどをお寄せいただけたらと思います。種目、子供の記録などをお願いします。どんなものでもけっこうです。ぜひお寄せ下さい。

送り先 〒206 稲城市大丸139-4-115 藤平洋子

## 法則化体育第3弾「なわとび」

### — 跳び箱・逆上がり に続いて —

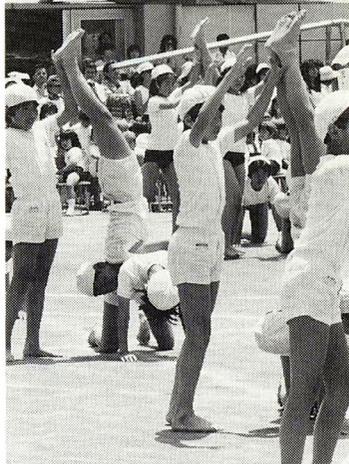
◇ 青森県の西田先生の教え子には、なわとびで「ギネス」にのった子がいます。「なわとび世界一」です。西田先生はなわとび指導の第一人者です。『法則化教材開発シリーズ』の第一冊目として、西田先生の著書を準備中です。新雑誌「楽しい体育」も近く創刊されます。

◇ 三重まわしができる「スーパーとびなわ」を開発しました。柄の部分長いのです。また、長い間北海道で支持されてきた「片山式とびなわ」も法則化運動の中で広めていくことになりました。

試作品・見本品を実費でお分けします。(なお、いずれ然るべき会社が扱うことになります。)

「スーパーとびなわ」「片山式とびなわ」のお問い合わせ(返信用封筒を入れて)。

〒233 横浜市港南区東永谷2-2-13 館野 健三



# 教室ツウエイ編集部推薦図書

(すべて明治図書の刊行です)

〒142 品川区旗の台  
3-3-21  
向山洋一

まずこの本を！

1 『授業の腕をあげる法則』

向山洋一著 新書版 七〇〇円  
二万九千冊突破のベストセラー。授業がかわります。二二二版。

2 『続・授業の腕をあげる法則』

向山洋一著 新書版 七〇〇円  
全国の書店に配本する前に四版になってしまった話題の書。すでに十版。

3 第一期 『教育技術の法則化』

全十二冊 七八〇〇円  
全国から集めた授業のポイント・秘訣がぎっしり。二十万六千冊突破の超ベストセラー。

4 第二期 『教育技術の法則化』

全十二冊 八〇〇〇円  
「中学・高校」編も加わって、内容は一段と充実。待望の第二期シリーズ。たちまち再版。

5 『子どもを動かす法則と応用』

向山洋一著 一九〇〇円  
教師の基本技術を実践的・理論的に説明。早くも十版のベストセラー。

6 『授業の腕をみがく』

向山洋一著 一九〇〇円  
教師の腕をみがく方法をわかりやすく示した本。十一版。

7 『教師修業十年―プロ教師への道』

特報

向山洋一著 一五〇〇円  
「斎藤喜博を追って」に書き下ろしを加え教師修業第十巻として八月に出版します。

切りとり線

## 『教室ツウエイ』定期購読・申込書

年	月号	より	半年間	各	冊
			1年間	各	冊

⑨  内に御記入下さい。

御芳名	
御住所	
勤務先	
書店名	

\* 毎月16日発売！ 定価550円

1. 教育雑誌の構想を考えています。

今年度いっぱいが同視期間(つまり1985年12月くらいまで)、来年度にキスト版を何回か発行して、再来年度からスタートです。

どのようにしたらいいのか、いろいろと考えます。

其本月刊を、2代志願者および志願志望者の20%くらいには読んでおける本を考えています。

単行本なら売れなくてよい本というのがあります。しかし、雑誌は売れなければよい本とは言えないわけです。「読まない方がいけない」なんてことは許されません。「読まない本」を作っていることが責められるのです。

2. さて、対象が決ったところで、どのようなものかという骨格が必要で  
す。つまり、コンセプトを決めるわけです。

雑誌のコンセプトを次のように考えます。

① 教室ですぐに使えることが書いてある。

② 若々しくかつ面白い。

③ ビジュアルである。

④ ツーウェイ(往復)の機能がいたるところにある。(読者参加である)

つまり〈ハイテック・ハイタッチ〉な内容をコンセプトとします。

3. 次に、私たちの力を考えます。

私たちの財産は、「若く元気のある全国の仲間が100名くらいいる」ということ  
です。これだけだといって過言ではありません。

しかし、これだけで十分です。

「人を得て、ことを為す」という言葉があります。

人さえいれば、後はどうにかかります。

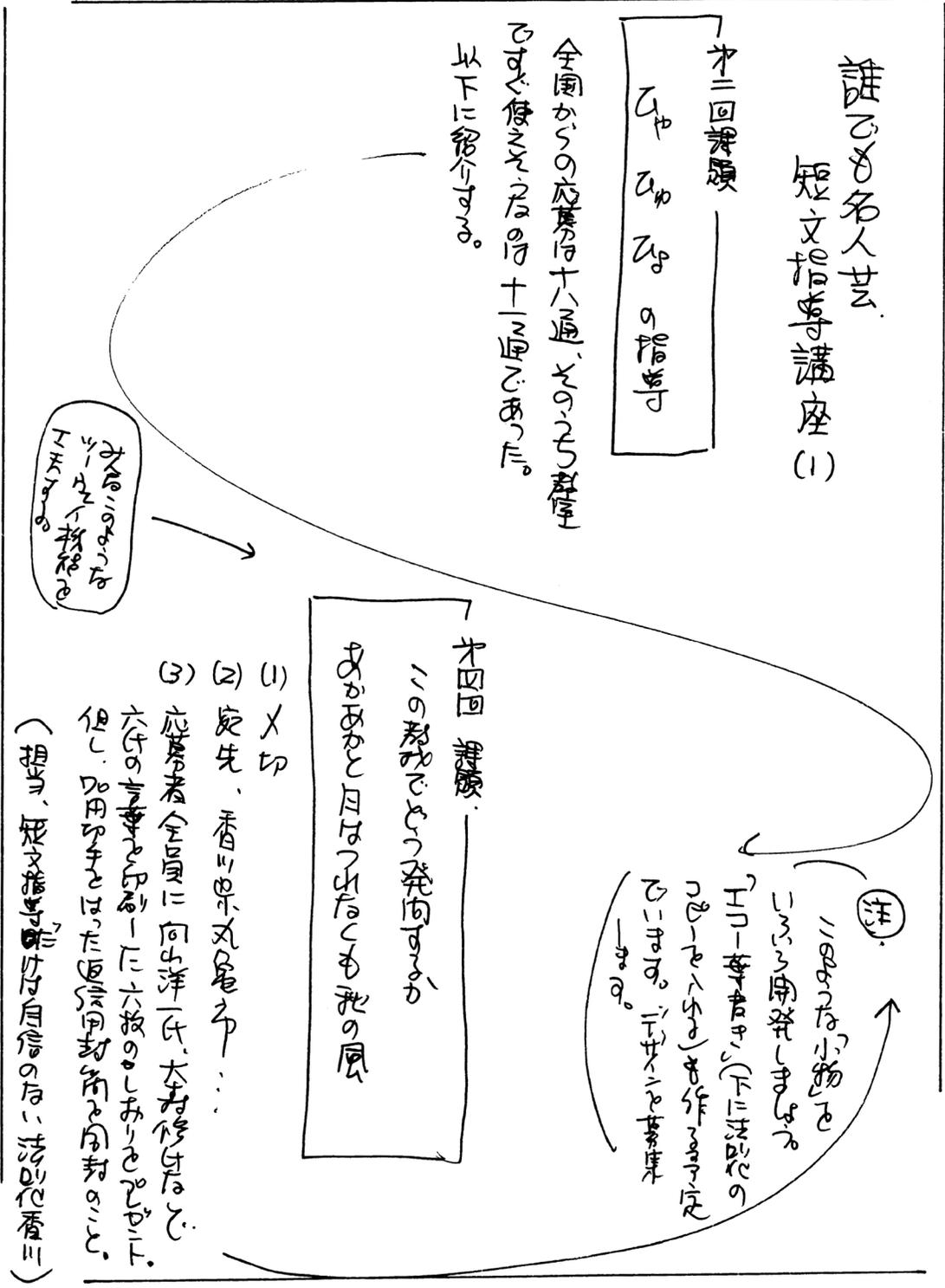
4. そこで、全国に散らばる仲間の力をどうするかです。それとコンセプトをどうミ  
ートさせるかです。

「たのしい授業」では、編集委員制度などがあるようですが、4マ4マして1パッと

しません。もっと大胆に構想したいと思います。

私は、全国の仲間(サークル)に、2ページ〜3ページを連載のよう形式で担当してもらうことを考えています。

例えば次のようにです。



全国からの応募は十八通、そのうち数通の返事をいただいた。以下に紹介する。

お返事は、  
16名に送る予定の原稿  
45名に送る予定の原稿

① 16名に送る予定の原稿  
② 45名に送る予定の原稿  
③ 16名に送る予定の原稿

(補) 短文指導の原稿は自費で有、担当は無料

5. どのような企画が考えられるか思いっみて書いてみます。

- (1) 「短文肉體」の法則化香川
- (2) 「資料をどうする」の京遊サークル
- (3) 「教席慶文化」の法則化静岡
- (4) 「こんなときどうする」ありふれた肉體の法則化青森
- (5) 「四則計算」の法則化千葉
- (6) 「漢字辞書一筋」の法則化木更津
- (7) 「教育論文を紹介する」法則化のグリーン北海道
- (8) 「写真で教育を語る」教育フォーカスを目標す法則化仙台
- (9) 「国著名文学読本」から法則化新潟
- (10) 「身近な事象を追求する」法則化豊橋
- (11) 「失敗にはくわしい」法則化大阪
- (12) 「了望の真像」に限りなく返る」千葉大田石研
- (13) 「古典から教育技術を学んでいる」学生技法研
- (14) 「法則化論文は本当か」あささかし時代の法則化山口
- (15) 「ルーティンのやり方」を追求する法則化金沢
- (16) 「全国からの華書き通字をライブする」法則化神奈川
- (17) 「それは何かわかるか」時向を考へる法則化名古屋
- (18) 「この規則は必要か」常に肉體構想を追求する法則化京都
- (19) 「教授の知的生産技術」の法則化静岡
- (20) 「読後感主眼点だけをつたえたい」法則化富山
- (21) 「コンピュータシステムを構築する」京遊サークルおまじろグループ。

いかがでしょうか。もちろんテーマは自分達で選んでいいわけです。

6. 但し、コンセプトからはずし内容(特に「つまらない」)を2号連続した場合は、その連載はストップにしたいと思います。

そのため、「連載の立候補」をとってあいて、穴をうめるようにします。落したところは、新しい企画で再挑戦のめはいいわけです。

一つのグループでいくつやってもいいようにします。個人のページも考えま

す。冊子(書籍など)も考えます。

そのほかの2〜310〜311冊位立っています。「よく見るとバリエーションが」しかし、「4ラッ、10ラッ10ラッと見ると面白い、ナウイということでは統一がとれています」しかし、穴があいた。その時は向山がうめず。3つあいた。8つ穴があいた。5つ全部、20穴があいた。私一人で20の穴をうの掘ります。

法則化運動には今のところ100名からのせよ又の良い若い若手も集まっているので、こんなことはないだろうとは思っていますが……。

100名合わせると向山一人と勝負です。どうして向山に追いつき追い越すことはできません。

7. 向山は、術者です。雑誌でおかす定期版に見くしたくないですね。

当面は、連勝で奪取が、いよいよレ・フクニミリを考えます。こうしますと何日かかかります。

8. 書名も問題です。私は百回考えました。その中で残っているのは2つです。

Tokyo ツーウェイ or. 東京 ツーウェイ

もう3人、これは落書きでして、いろいろ考えこみこ下せ。いくつか書き出して20代の若手にアンケートしてみ下せ。書名はかなり適切です。

9. 雑誌の大きさは、ワラ半紙半。B4形です。たて書きでイメージして頂きます。自分磨き面白いもの、自分磨きに役立つもの、それと自分磨きでワイワイやりながら作ってみようというものです。

以上が、私の現在考えているプランです。細かいところはいろいろありますが、骨格はこのようになります。

こういう落書き雑誌はいかがでしょうか。

ぜひ感想をお寄せ下さい。

また、5で述べたような趣意をお寄せ下さい。(見本原稿を送っていただけるとありがたいです)

では、お別れ。

役立つ面白い若い教師の情報誌  
 ツーウェイ 2way

編集長 向山洋一

編集委員 江部 透 橋口雅子

明石雲一 石黒 修

連載原稿の  
 持ち帰り!

1. 20代教師を主たる読者対象として「新しい教育雑誌」を創刊します。1965年度下期に「テスト版」の発刊、1966年度4月から「テスト版の形での発刊」を目指します。記事の8割は、全国から公募します。連載形式で20本〜30本。単発読み切り型の実践・研究報告を20本くらい募集します。連載は3月の合宿で次の方々が一次合格者となりました。根本正雄(千葉) 高橋俊也(千葉) 杉山裕之(静岡) 石橋卓(大阪) 鈴木裕子(神戸) 60%は20代教師です。
- 2 雑誌のイメージ(コンセプト)を次のようにします
  - ① 教師ですぐ使えることが書いてある。
  - ② 若々しく面白い。(当然、読みやすい)
  - ③ ビジュアルである
  - ④ ツーウェイ(仕度)の機能がいたる所にある。(まだ読者参加の形式)つまり、〈ハイテック・ハイタッチ〉な内容をコンセプトとします。
3. それぞれの記事は、(応募見本原稿)が合格した方々、グループに振り分けします。雑誌内雑誌がいたる所にあるという形になります。但し、「つまらない記事」を2回〜3回続けたら連載中止にします。一人(一グループ)で、いくつもの原稿を担当されてもけっこうです。
4. 今までの常識を破る構想でありたいと思います。執筆後記を頭に書く。「この記事は面白い。この記事はつまらない」などと執筆前記に書いてもらう。  
 次のような企画が考えられます。「仕事部屋を撮写する」「ただ今企画中」「公開合宿」  
 20代若者のページ「ミニコミ案内」「伝言板」「これだけは許せない 匿名怪談」……  
 「読面批評. どの記事がつまらなかったか」「法制運動への批判」「この教育理論は有効か」  
 現在企画している企画は次のような内容です。「今度は先生が当番です。帰国子女がうまなめ」  
 「どうも面白い内容」「とにかくやってみて下さい。子供が超々超々ゲーム理論を」「スイッチが滑せまか…失敗の経験」「ジョージ君の文章. 本を読んで」



募集

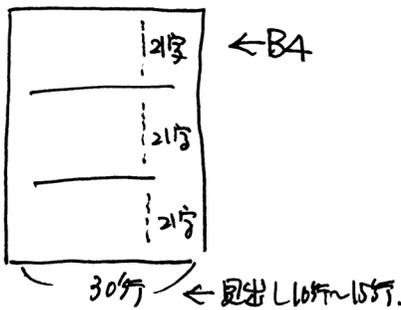
役立つ面白い若い教師の情報誌  
(仮題)  
東京ツーウェイ

1. 新しい教育雑誌が1987年4月に創刊されます。編集長は向山洋一、副編集長は江部満氏、樋口雅三氏です。

1986年には、テスト版を3,4回出します。テスト版ですから思いきり逞激をしてみたいと思います。テスト版で、年代別の夏休み止めの方、地域別の反省などの調査をします。

その道の専門家、教育社会堂の千葉大明石研には、このパフォーマンスを全部追いかけていたいただきたいと思っています。

2. この雑誌は、各地のサークル、団体、個人が、「2ページ又は3ページ」の記事を連載の形で担当するという形をとりたいと思います。(たごき)



1ページの容量は一般的にはありますが、担当のページをどのように構成しようと自由です。

3. それぞれの連載は「ゆめいを抜いたタイトル」をつけて下さい。<sup>目次にできる</sup>「短文指導」というようにです。そのタイトルで連載を続けます。読者が「つまらない」と言われれば、「連載打ち切り」、「面白い」と言われればずっと続けられます。

4 ツーウェイというのはワンウェイ(一方通行)に対して考えたものです。「行ってこい」がある。「読者参加」がある、ということです。  
各連載の中に、どんな形でもかまいませんから、「ツーウェイ機能」を工夫して下さい。この「ツーウェイ」が本誌の目玉です。「ふれあい機能」です。

5 連載を担当するのは、個人・団体どれでもかまいません。また、いくつ担当されてもけっこうです。当然ながら原稿料は出ます。

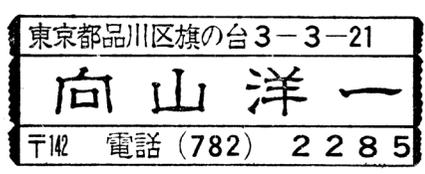
6. 必要自連載はおよそ20本です。(他に補欠が10本ほいいいことです)  
これを、テスト版の段階では、法制化内部応募で15本、全国公募で5本を考

		株	補欠
(1) オ1回×切	春の公開合宿 (持参の*)	3	2
(2) オ2回×切	5月の20代講座	2	1
(3) オ3回×切	夏の公開合宿	5	3
(4) オ4回×切	夏の20代講座	3	2
(5) オ5回×切	9月30日.	2	1

7 応募に必要なもの

- ① 見本原稿 (タイトル記事などをすべて完成させていること)
- ② 6ヶ月間の「サブタイトル」又は見直し
- ③ 本企業のゆらい

あて先、向山自宅。



8 ほか、上記以外に(つまりメイン記事以外に)コラム等の、半ページものなどの企画がありましたらお寄せ下さい。応募要領は、メインと同じです。

9. 自分達の寺で、自分達の情報を集め、自分達のために、自分達でパフォーマンスしてしまおう という雑誌です。

(これは、ほかほか面白く存りそうだと思うのです。いかにでしょう)

企画例を出しましたが、私后ら次の企画で勝負です。

「この雑誌のどにも入らぬい原稿を集めている スクランブル講座」

担当、常識と反常と無復讐の向山洋一。

(では、若々しい図教の面白い企画をお待ちします)

# 「ツーウェイ」オ=次企画案

1985. 5. 19. 向山.

## 1. 書(誌)名

A. フリーウェイ.

b. 教室ツーウェイ.

## 2. 商標登録.

A. フリーウェイ. Free way. ウエイ. 教育技術フリーウェイ.

B. 2way. <sup>ツーウェイ</sup>往復書簡 法里心ツーウェイ 教育技術ツーウェイ

C. 教室QandA. 法里心Q,A. 教育技術Q,A.

## 3. 基本方針

(1) 若い教師に圧倒的に支持される教育雑誌を作る.

(2) 新しい教育文化創造の拠点とする

(3) 相方向性(ツーウェイ)を持った教育雑誌を創る

a. 圧倒的とは、今までのすべての教育雑誌で最高部数に達することを.

b. 若い層は、20代男教師と20代未婚女教師をさす。ここが中心である。

c. 次の広がりとして女教師層を仮定する。この場合のテーマは「すぐ役立つ」である。

D その次の広がりとして30代男教師を仮定する。この場合のテーマは「骨太な議論」である。

E. 新しい教育文化とは、20世紀教育技術の集大成であり、運動の中心は法里心である。

F. ツーウェイの中心は、読者参加である。

#### 4. 編集の基本コンセプト

(1) 敬語ですぐに役立つ

(2) 読みやすく面白い

(3) ビジネスに役立つ。

(4) ツーウェイ(往復)機能がいたるところにある。

A. 「すぐに役立つ」とは、「翌日、授業で使える」ということである。

B. 「すぐに役立つ」とは、今週(今月)の行事(研修者会等)で使えるということである。

C. 「読みやすく面白い」とは、つかれた時でも、酒を飲んだ時でも、ひき止めてしまおうということである。

D. できる限り活字を離れて、絵や図として表現する。

E. 「ツーウェイ機能」は、運営担当者が、さしどくエッセイにつけ加える。

#### 5. 厚稿の募集

(1) 厚則として公募する。

A) ツーウェイ誌上。(2) 合宿・講座を基本とする。

(2) 3号続4つまらない記事は中止する。

#### 6. ツーウェイ機能の維持。

ツーウェイ機能の維持のため、金額のはたない4物(しおり等)を掲載する。

# 第4回合同合宿の予定

1984. 8. 25~27

向山

尺牘 山本. TEL. 05312-5-0786.

## 1. 日程

	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
25日								A	レポート準備	自己紹介	基調報告 向山	全体会	B	夕食 余作					雑談
26日		朝食 余作		C	全体会		昼食	D	分科会		E	分科会		夕食 余作					雑談
27日		朝食 余作		F	全体会	G	全体会		昼食										

**説明** レポート準備. ①自分のレポートに添え書き. ②2冊分に稿紙を切る. ③全体会で1冊づつ. 責任者 石原

全体会(B.C.F.●). 各自のレポートから1通目を検討 1人の持ち両面10分(提議・討論意を含める)

全体会 G I 今後の方針の確認

(1) 1985 春の合宿? 日時 場所 規模  
担当

(2) 1985 夏の合宿(担当: 新島) 日時

(3) 1986 担当?

II 教育技術法則化のための活動

(1) 応答論文

(2) 本を定める運動

(3) 特集企画 etc

(4) 今後の見通し

分科会 D.E. 学年別. (1) レポートの検討 (記述・置記者・締結)

(2) 学年別構成内容の検討 -- 互恵をひき合わせる

II 仕事分担. (担当: 豊橋21会)

総務 -- 山田 会計 -- 遠山 (才: 日会全体会終了後 = 集金. 1人8000円)(最終日: 消費)

宿泊 -- 三浦 食事 -- 福井 記録 -- 手塚 (全量の仕事代をとり. 後日郵送)

### III. 会期中の企画 (雑誌の中ほどで...)

I. 新卒教師が困ること。〈座談会〉 法則化特集に掲載。400字24枚〜32枚・担当 杉山。

出席 岡、大川原、西尾、村川、三浦、妹尾、石橋、杉山、<sup>水</sup>岩川。

II 教育技術法則化に期待する。〈座談会〉 法則化特集中に掲載。400字24枚〜32枚担当 佐々木。

うけとめ、反響、論文を書いて

III 教育技術法則化 特集巻の案

担当 石岡

(現在) 水泳指導のノウハウ、漢字指導の工夫、詩の授業

IV 応募論文、学年教科別一覧表の作成

担当 坂倉、永原。

### IV. 編集作業

応募論文に〈編集個票〉をつけます。それを一部屋に置いておきます。自分も読んで

て「ものすゝみ」のは◎。「とってまけてぜひ本に入りたい」は○というふうに個票に記入して下さい

(但し、自分の駄目です。良い点、悪い点のコメントも書き加えて下さい)

時間を見つけて、この作業をぜひやして下さい

### V 募集論文

1. 京決サークルを巡って。3枚程度 X切 9月10日 向山宛

2. 教育技術の法則化運動は自分に何とて何か。X切 9月30日 向山宛  
枚数自由。

### VI. 教育技術法則化の郵送

郵送事務が大変后のです。今後もしいい方。(郵送希望の方)は、うすい封筒に70円

切手を見て、自分宛の住所氏名を記入して、向山あてに5冊ほど送って下さい。ほかの冊子も

又、追加して下さい

### VII その他

・京決教育サークル一日参観希望者

・応募の時、何か一言同封して下さい。後で役に立ちます。

・合宿ルポ... 募集(枚数8〜21枚) 何人でも。向山あて。

# 公用合宿諸連絡

1985. 3. 29

1. 本日の日程 ----- 雑誌案内の通り (但し一部変更)

担任(当) 実行委員長 篠野健三 ... 宿泊、変更等  
 会計 石岡芳子 ... すぐにお預いします。  
 庶務 新牧賢三郎 ... その他、夜の文壇の1ヶ月内等

2. 原稿募集 ----- 本合宿の内容は法則化シリーズオ2期出版に集められます。

次の原稿を募集します。宛先、向山。X切4月中。8枚~18枚。

- (1) 追試して何を考えたか (2) 論文の書きぶりのどこが面白かったか
- (3) 法則化運動とは何か (4) 新しい教育文化の創造とは何か。
- (5) 今までの実践や研究のどこが面白かったか (6) 合宿の印象
- (7) 合宿紀行 (8) 何を学んだか (9) その他

3. 新しい教育雑誌「ツーツエイ 2way」について。

今年度中にラスト版を発行する。次年度、ラスト版の形で発行する。

このため、連載記事の募集を早める。

回次	題名	冊数	補欠	備考
オ1回X切	春の合宿	5本	1	B4型 21x31~41x31
オ2回X切	20代講座(参加者)	8本	1	
オ3回X切	6月末日(郵送)	5本	1	合宿村企画を参考2042
オ4回X切	7月末日(郵送)	5本	1	
オ5回X切	夏の公用合宿オ~	5本	1	} 5月号で募集開始
オ6回X切	夏の20代講座オ~	5本	1	
オ7回X切	8月末日	2本	0	

編集長 向山 編集委員 江部、樋口、石黒、明石、

4. 法則化シリーズオ一期出版 12冊。5月下旬~6月上旬 1冊500円~600円。

関連出版。(同じ3) 教育新書 ①「授業の腕を上げる法則」向山洋一。

石黒修、根本正雄、大森修、向山行雄 4冊。

5. 関連行事。

教育方法学会 10/2, 13 新潟 文学教育の論争、大森修氏

文芸研研究大会 広島、11/30~12/1 向山出席

新潟大協小公用発表(資料)1986. 2/6(木)、15分発表オ2回は  
 1986年度、予、打落。

6. 法則化資料シリーズ 注文は向山まで

	①	②	③
1冊	650 (送料別)	320 (別)	350 (別)
5冊	600 "	300 (")	320 (")
10冊	580 "	280 (別)	300 (")
20冊	560 "	270 (別)	280 (")
30冊	540 "	260 (別)	270 (")
50冊	520 (送料込)	250 (込)	260 (込)
80冊	500 ( " )	240 (込)	250 (込)

7. 法則化サインロン

1本100円のところ1本100円で……。 (送料は別)

8. 第2期応募論文

すでにかつりの応募論文が集まっています。800本にはまだ足りません。

ぜひ、多くの応募をお願いします。向山あてにお送り下さい。

9. 「このようにテスト」「このように一枚紙」を作っていただきたいと思ひます。

時間をかけてためていけばいいものができると思ひます。

これも、「向山宛」にあよせ下さい。

10. 「法則化」にかかわる、まわりの人々の反応、要望などを明治図書館宛にお寄せ下さい。(江沢氏、樋口氏あて) 企画の参考になります。

11. 法則化ニュースは、「授業研究」誌、「現代教育科学」誌には、毎月必ず載ります。他誌は、時々です。

なお、「授業研究」誌で、「論文の書き方」の連載が始まりました。担当は法則化事務局です。ぜひ、ご活用下さい。

12. 「ツウエイ」の応募者へのお礼に「人物」を用意することを考へて思ひます。

「斎藤孝博を巡って」の本当の原稿が貼ってある色紙。

事務局に注文した「法則化」のエコーハガキ

向山、石黒、杉本、大森、野口、有田 氏の文字を入れた挨拶。

(ふい・アランをお考へ下さい。)

# 教育技術の確立を求めて.

A

## I 教育における技術とは何か をどう考えるか.

- わざ・技能・技術・法則.
- 技術の共有財産性.
- 技術の習得と組織化.

## II とび箱を全員とばせる.

- とばせられるまで
- とばせる技術
- 技術を可へての子ども達へ

## III 全員を泳がせる

- 泳がせるまで
- 泳ぎを教える.

## IV 一時に一事を指示する

## V 定規を使わせる

## VI 全員起立.

④ 確立させ → 16c. 17c. 18c.

⑤ 16c. 17c. 18c.

**B**

定石としての教育技術

I 教育における技術を考える.

- わざとしての技術
- 定石としての技術

II 一時に一事を指示する

- 一年生の算数を三つの指示を出した.
- 朝礼で二つの目標を平した.
- 六年生に六つの注意を与えた.

III 論争点を対立する二つかに整理する

- 2つと3つは. どちらかではない.
- |           |               |                   |               |
|-----------|---------------|-------------------|---------------|
| ① $A > B$ | ⑤ $A > B > C$ | ⑩ $A \circ B = C$ | ⑬ $A = B = C$ |
| ② $B < A$ | ⑥ $A > C > B$ | ⑪ $A = B > C$     |               |
| ③ $A = B$ | ⑦ $B > A > C$ | ⑫ $A = C > B$     |               |
|           | ⑧ $B > C > A$ | ⑬ $B > A = C$     |               |
|           | ⑨ $C > A > B$ | ⑭ $B = C > A$     |               |
|           | ⑫ $C > B > A$ | ⑮ $C > A = B$     |               |

- 国語における論争
- 社会科における論争.

IV 個別に評価をする • よむかいたの練習 (合唱)

- 前まわりの指導.

V 口で口でなく. その場でさせる • 気をつけ.

VI 序理を教える • 応援団の指導.  
(目的)

VII. 乙. ぬい. 持続. 終中. して  
(その技術は共通する).



「指導の原則」↓

## 全ては向山氏一人から始まった

板倉 弘幸

### 1. 法則化運動の立ち上げ

1980年5月、向山洋一氏と初めて出会って以来、今日に至るまで師事している板倉だが、「法則化運動」に誕生日があることを知ったのは最近のことである。

1984年8月号の『現代教育科学』誌に「第1回投稿論文募集」が発表された。向山氏は「この日をもって、法則化運動の誕生日とする。つまり1984年7月12日である」（『ドキュメント「教育技術法則化運動」の誕生』明治図書）と述べている。

さらに、向山氏は同著で次の3点も問題提起している。

- ① すぐれた教育実践は共有財産であるという思想の確立と普及
- ② 共有財産にするまで実践の批判・検討は不可欠であるという研究的方法の確立
- ③ 共有財産はすべての教師の参加によって創られるという学問的組織の確立とシステムの設置

これらの主張は、この運動立ち上げ時が初めてではなく、向山氏のデビュー論文「絶えざる追究過程への参加」（現代教育科学80年6月号）にすでに内包されていた。また、当時の「出口論争」も、法則化運動のきっかけになったと向山氏はいう。

### 2. 法則化論文の募集

法則化運動立ち上げ時の最重要課題とは

「法則化論文をいかに多く集めるか」であった。向山氏からは、連日のようにB4用紙で何枚にもなる手書きの「通信」が郵便で届いた。向山氏はたった一人で、全国各地の先生方に向けこうした通信をポストに投函していた。発送先は、最終的に数百人にもなったと聞く。京浜教育サークルの例会時、「ペンだこ」を、向山氏に見せていただいたことがある。その塊具合にびっくりしたものだ。

全国から届いた法則化論文が500本になった頃、私も必死の思いで19本を書き上げたものの限界を感じ、向山氏に弱音を吐いたことがある。そんな時、向山氏から直筆の激励のメッセージが届いた。

昨日の原稿、大変良いできで満足しています。法則化の原稿が大変のようですが、できないときはのんびりやることです。「実力のなさ」に気付いたというのは、今までの「うぬぼれ」が訂正されたのだから、良いことなのです。板倉君は原稿を書いているサークルメンバーの中では、最も若い方なものですから、比べることもないのです。ただ「競り合い」の時は、みんなが伸びるときですから、自分なりに頑張ってみるというのも必要かもしれません。多分今までの人生で板倉君には「競り合い」という場面はなかったでしょうから、いい経験だと思います。「競り合い」の極意は「苦しい時にもう一歩がんばる」ということです。誰でも苦しいときは苦しいのです。

向山

法則化運動があのように巨大な広がりをも

見せたのは、向山氏自ら全国津々浦々に点在する一人一人の先生方に直接メッセージを発信していたこと、そして、何よりも向山氏が、一人一人の仲間を大切にしていたことが大きな要因であったことは間違いない。

### 3. 『教室ツーウェイ』の創刊

本冊子には、機関誌の書名決定までのいくつかの案が掲載されている。双方向性を強調する「ツーウェイ」という名称は、絶対に外せない、というのが当時の向山氏の強固な主張であった。「フリーウェイ」、「東京ツーウェイ」等の諸案も出たが、最終的に「教室ツーウェイ」となった。この「教室」の言葉は、たしか樋口雅子編集長の発案ではと微かに記憶していたので、念のためご本人にお尋ねした。樋口編集長からすぐに返信をいただいた。

私がぼろっとつぶやいた時、向山先生が「うん、教室を入れよう」と。はじめは、「ツーウェイ」だけでした。これでは、教育関係ということが、わからないのでは?という思いから、提案しました。

『教室ツーウェイ』の書名は、まさに向山氏と大編集長との合作であった。

もう一つ忘れられない思い出が「呼びかけ号」の私の原稿ミスである。算数の図形問題であった。向山氏が心血を注いで編集された最重要な機関紙の「呼びかけ号」である。しかも、差し替え原稿が間にあわず、訂正版の用紙を挟み込んで出版をする事態になってしまった……。このときの私の心境

は筆舌に尽くし難し。だが、この大失敗のおかげで、今日まで『教育トークライン』の校正を担当させていただいている、と今は感謝するばかりである。

### 4. 法則化本合宿の立ち上げ

第1回本合宿で向山氏が高く評価した論文に飯田勝己氏の「段階別台付き鉄棒による逆上がり指導」があった。跳び箱と踏切板に段階的な傾斜を付けたものを補助具として活用する指導法である。なお、根本正雄氏は後にこの指導法の有効性を追試・検証した実践研究書『さか上がりは誰でもできる』（明治図書）を出版する。

この論文が話題になった時、私も新卒当時自分なりに実践していた経験があったのでその旨を向山氏に話した。ところが氏から「ただやったことがあるのと、この飯田論文のように『どんな方法でどれくらいすると、どれだけできるようになったのか』を明示したり数値化したりするのでは質量ともに天地雲泥の差がある」と厳しくたしなめられた。

後に、波多野ファミリスクール体育教室で15年間、向山氏と石黒修氏の後を受け講師を務めた。小学校2年～6年の子どもたちのべ500人に跳び箱・逆上がり、二重跳びを出来るようにさせてきた。この体育教室で行ってきたのが、「向山式跳び箱指導法」、「段階別台付き鉄棒」、そして「スーパー跳びなわ」であった。

このように法則化運動は私の教師人生を豊かにするだけではなく、多くの指導法や教材教具を開発し、日本の教育界に大きな恩恵をもたらした、というのが、私の率直な結論である。



7月特典

No.08 | 2024年7月

## 向山洋一 教育資料

### 1984-2001 法則化運動40周年

発行日 2024年7月5日

発行所 向山洋一教育技術研究所

所在地 〒142-0064 東京都品川区旗の台2丁目4番12号



谷和樹の教育新宝島

<https://shintakarajima.jp>



向山洋一公式サイト

<https://mukoyamayoichi.com>

このPDFは、プリンタの「冊子印刷」を選択すると冊子になります。  
他人への譲渡および個人研究以外の目的で使用することを禁じます。